

最先端医療に熱視線

山大医学部で研修 「有意義な機会」感謝

タイの医学生

山口大医学部の学生
でつくるサークル、国
際医療研究会（田代 紘

朗代表、80人の引き
受けて実施する交換留
学で、17年目。

今回来日したのは、
チャナカ・ジャマイ
ターウットさん、ソウ

ターワン・アネイメイ
の女性2人と、男性の
シャヤポン・リントラ
ックウンさんで、いず

れも22歳。



注射調剤のチェックについて古川部長から説明を受ける3人（山口大医学部付属病院で）

タイ国立マヒドン大学の医学生3人が、山口大医学部で研修に取り組んでいる。14日から27日までの2週間で、さまざまな診療科を回り、最先端の医療現場を見学。学生宅にホームステイして寝食を共にしながら、交流イベントや県内観光も満喫している。

小児科、内科、外科
などを回り、21日は薬
剤部でさまざまな調剤
機器や処方チェックの
システムを見学した。

来年度から付属病院が

はアジアを代表して発
言すべき立場にあると
思う。アジアの人たち
に医療現場を見てもら
うのは、ありがたい」と
話していた。（松原）

薬剤部長の古川裕之
教授は、部屋にタイの
音楽を流して歓迎し、
同部の役割や仕事内容
を紹介するDVDを3
人にプレゼント。日本

「内科ではカテーテ
ルによる血管内治療が
印象に残った」とジャ
マイターウットさん。
リントラックウンさん
は「内視鏡の使い方
を訓練するシミュレー
タに刺激を受けた」。ア
ネイメイターウット
さんは「小児科で
聴診器を患者の胸に当
てると、内蔵スピーカ
で他の人にも心音が
聞こえる機器が新鮮だ
った」と感想。日本の
医療システムや生活様
式、文化に触れる有意
義な機会を与えられた
ことに感謝している」と
口をそろえた。

入院患者向けに取り組
む、病棟薬剤業務につ
いても学んだ。

マヒドン大学(タイ・バン コク)の医学生が、 薬剤部の一日見学を しました。

